

議 事 録

会 議 名	令和5年第4回愛知県安城警察署協議会（定例会）																						
日 時 ・ 場 所	令和5年12月4日（月） 午後3時から午後5時まで ----- 安城警察署講堂																						
出 席 者	<p>1 委員</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">天野 賢二 会長</td> <td style="width: 50%;">福江 美穂 副会長</td> </tr> <tr> <td>加藤 領助 委員</td> <td>大見 哲久 委員</td> </tr> <tr> <td>山田 彩織 委員</td> <td>山田 哲夫 委員</td> </tr> <tr> <td>高橋 亜弓 委員</td> <td>鈴木 淑子 委員</td> </tr> <tr> <td>岩月 都華 委員</td> <td>柴橋 邦彦 委員</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">以上10名（定数12名）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>2 警察署</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">渡邊 署長</td> <td style="width: 50%;">金田 副署長</td> </tr> <tr> <td>山下 捜査指導官</td> <td>渡辺 警務課長</td> </tr> <tr> <td>廣永 会計課長</td> <td>足立 生活安全課長</td> </tr> <tr> <td>南 地域課長</td> <td>島 刑事課長</td> </tr> <tr> <td>古川 交通課長</td> <td>村松 警備課長</td> </tr> <tr> <td>渡部 知立交番所長</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">以上11名</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>3 有識者等 なし</p>	天野 賢二 会長	福江 美穂 副会長	加藤 領助 委員	大見 哲久 委員	山田 彩織 委員	山田 哲夫 委員	高橋 亜弓 委員	鈴木 淑子 委員	岩月 都華 委員	柴橋 邦彦 委員	渡邊 署長	金田 副署長	山下 捜査指導官	渡辺 警務課長	廣永 会計課長	足立 生活安全課長	南 地域課長	島 刑事課長	古川 交通課長	村松 警備課長	渡部 知立交番所長	
天野 賢二 会長	福江 美穂 副会長																						
加藤 領助 委員	大見 哲久 委員																						
山田 彩織 委員	山田 哲夫 委員																						
高橋 亜弓 委員	鈴木 淑子 委員																						
岩月 都華 委員	柴橋 邦彦 委員																						
渡邊 署長	金田 副署長																						
山下 捜査指導官	渡辺 警務課長																						
廣永 会計課長	足立 生活安全課長																						
南 地域課長	島 刑事課長																						
古川 交通課長	村松 警備課長																						
渡部 知立交番所長																							
諮 問 事 項 等	中高年警察官の活性化方策																						
答 申 等 の 概 要	<p>1 外部機関等の講師による研修 外部等から講師を招き、健康管理、介護等の研修を行う。</p> <p>2 コミュニケーション機会の創出 上司との会食、職員の趣味、価値観についてアンケートの実施等 コミュニケーションの機会を創出する。</p> <p>3 プロジェクトの責任者や教育の講師等知識経験を活かせる機会の 拡充</p> <p>4 運動の機会を与えたり、健康診断、休暇等の制度の周知</p>																						
そ の 他	次回開催予定 令和6年2月下旬～3月上旬																						

会議の経過及び発言の要旨	
1	会長挨拶
2	署長挨拶
3	各種報告
	(1) 管内の犯罪発生状況（生活安全課長説明）
	(2) 交通事故発生状況（交通課長説明）
4	前回の答申に対する具体的施策の推進状況
	(1) 諮問事項
	災害対策の現状と大規模災害への対応
	(2) 答申事項
	ア 個々の災害意識を高めるために必要な避難場所、支援場所・施設、最新の防災情報等の重要事項についての情報発信
	イ 繰り返しの訓練の継続と市民参加型訓練の促進
	ウ 関係機関・企業との連絡体制づくりとその連携の強化
	エ 防災アプリの活用の促進
	(3) 推進施策（警備課長説明）
	ア 答申事項アについて
	○ 地元ケーブルテレビ局のデータ放送を利用した情報発信
	○ イベントを利用した広報活動の実施
	イ 答申事項イについて
	○ 愛知県・安城市総合防災訓練の実施
	○ 地元企業の協力による衛星電話通信訓練の実施
	ウ 答申事項ウについて
	記録者
	警 務 係 長

会議の経過及び発言の要旨	
地元企業との協定等締結により、署代替施設、部隊活動拠点、燃料の供給、食料の供給、重機の支援等の連携を強化	
エ 答申事項エについて	
防災アプリの普及促進のため地域課員がミニ広報紙による紹介により普及促進を実施	
5 諮問	
(1) 諮問事項	
中高年警察官の活性化方策	
(2) 諮問事項の設定理由（地域課長説明）	
ア 定年延長や採用人員の減少に伴い、中高年警察官の構成比率が高まる中、社会や時代の変化に的確に対応する地域警察を構築するためには、若手警察官のみならず、中高年警察官が、自ら考え、動けるよう「最適化」をする必要がある。	
イ 地域警察官がやりがいや働きがいを感じられる魅力的な職場環境を構築しなければならない。	
ウ 中高年警察官は、心身の疾患、家族の介護等の問題が生じる世代であり、今後組織における構成比率が高まり、組織の要としての役割を担うことから、その活躍が地域警察の目的遂行に必要不可欠である。	
エ 中高年警察官の職務執行能力の向上を図り、さらにはモチベーションを上げる方策などについて諮問事項として設定した。	
6 協議	
委員 ・ 中高年をリーダーとするプロジェクトをしてはどうだろうか。	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
培ってきたキャリアに沿い専門分野に特化したプロジェクトを進めれば能力を生かせる。	
委員	・ 中高年と若手をただ組ませても下の者が嫌になって若手が辞めてしまうこともあるため、お互いが尊敬できる関係を構築する必要がある。
中高年・若手にはそれぞれ得意分野と苦手分野があることから、長所を伸ばし、短所を補うことができるように組ませてもうだろうか。	
委員	・ 中高年だけ改革しても上手くいかない、若手の育成も必要である。
委員	・ モチベーションをアップする部外研修をしてはどうだろうか。役職が上がったとき等、定期的な研修があると思われるが、部外からの研修は言われて初めて気付きとなることもある。心理カウンセラーや健康管理に関する研修も効果的である。
委員	・ 少子化している世の中だからこそ若手が辞めない環境づくりが必要である。
中高年は自分ができることは若手もできるとは思わず、細かく教え若手を育てていく必要がある。時代に合わせた教育体制を構築し、褒めて伸ばすなど人を大切にする取り組みが必要である。	
委員	・ 若手に見て覚えるとは言いにくいので、マニュアルを作成する等して技術や知識を伝承してはどうだろうか。
委員	・ 定年が近い方のモチベーションを維持することは難しく、例え
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨			
<p>ば若手を持ち上げれば中高年は沈み、中高年を持ち上げれば若手が沈むことから管理する側がどちらかに偏ることがないバランス感覚が必要である。</p>			
<p>バランスの不一致は互いの理解不足でも生じるため、コミュニケーションやどのような教育を受けてきたかを互いに知ることで相互の理解不足を解消することができる。</p>			
委員	<p>・ 中高年は経験に基づく知識や技術を持っているが新しいことを始めたり知識を吸収するのは苦手であり、逆に若手は新しいことを吸収していくことができるので、互いに教え合うことができればよいと思う。若手が中高年に教えることもあると思う。</p>		
委員	<p>・ 同じ部署内でも年齢差がある者同士が仕事を一緒にしているため、相手の立場を理解して互いを認め合うことができるチームワークが自然と生まれる組織づくりを行う必要がある。</p> <p>また、心にゆとりを持たせるため、プライベートの時間が取れる職場環境も必要である。</p> <p>お互いのことを知るためにはコミュニケーションを多くとることができ時間が必要なのではないか。</p>		
委員	<p>・ 会話は必要である。</p> <p>会話がなければ相手のことを違うように考え捉えてしまうことがある。また、表情だけでは理解できないが、話せばわかることも多くあるのでお互いを知ることは必要である。</p>		
委員	<p>・ 若手の特に30代や40代の方達に愛社心を持ってもらうことが大</p>		
	<table border="1"> <tr> <td>記録者</td> <td>警務係長</td> </tr> </table>	記録者	警務係長
記録者	警務係長		

会議の経過及び発言の要旨	
切である。会社の未来を考え、自分達の未来を考え、自分達の会社を自分達の考えで制度や環境を整え、自分達で環境をより良くしていくという考えを持つことが必要だと感じる。	
委員	・ キャリアの選択肢を5年、10年と細分化すれば将来の選択肢が増えると思う。中高年は勿論であるが、若手も将来に備えて介護の知識を学び、場合によってはヘルパーの資格を取るなどの研修の機会を設けてはどうだろうか。心理カウンセラーの常設により心のケアをしたり、休暇制度を充実し心身の良好な状態を保つ仕組みも必要である。
委員	・ 当社は体を使う仕事が多いため、作業一つ一つの体の負担度を点数化している。点数が高いところほど困難な仕事であることから、負担軽減のための改善に取り組んでいる。 再雇用時の体力測定や健康診断等を実施することで、その人に見合った仕事を割りあてるようにしている。 また、中高年が安心して長く働けるよう、健康診断で再検査が生じた時は、治療に専念させるよう強制的に休みを取得させている。
委員	・ 若手と中高年を組ませ、若手に効果測定などを実施し、効果があれば中高年も表彰するような中高年が育成に対して力を入れる取り組みをしてみてもどうだろうか。 組織のトップや幹部が褒めることは、組織のモチベーション向上につながるものである。
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
委員	・ 中高年と若手がコミュニケーションを取りやすいよう、趣味や共通の話題を共有できる仕掛けづくりを組織として行ったらどうか。
委員	・ 体力向上や体力維持では、歩数計アプリを利用してランキング付けを行い、上位者だけでなく誰でも賞が貰えるように工夫したらどうか。
7 答申	
1	外部機関等の講師による研修 外部等から講師を招き、健康管理、介護等の研修を行う。
2	コミュニケーション機会の創出 上司との会食、職員の趣味、価値観についてアンケートの実施等コミュニケーションの機会を創出する。
3	プロジェクトの責任者や教育の講師等知識経験を生かせる機会の拡充
4	運動の機会を与えたり、健康診断、休暇等の制度の周知
8 その他	
次回開催予定については、令和6年2月下旬から3月上旬とする。	
記録者	警務係長